竹内多三郎 様

1

お元気のことと存じます。皆さんでおりますが、本日は「あさつきのうた」をご恵与いただき、どうもありがとう。さっそく拝読いたしました。なかでも「泣く子と病人には」に強く胸を打たれ、更に「夏の朝のうた」に深い感銘を覚えました。永いおつきあいの奥様のご看護にご苦労さまでした。私は旧臘三十日に倒れ救急車で入院、この三月に退院いたしましたが、女房は看護の疲れから私と入れかわっ

入院、たいまは糖尿があるというので家療養中といったありさまで大兄のご苦のほどがわかることのようご察しられますお互に齢ですからからだを大事にいたしましょう。どうぞ宜しくお仕事をつづけくださいとりあえずありがたくお礼申あげます。

十月三十四日

土家由岐雄

2

十月三十四日

狭山市入間川一三五一十二

土家由岐雄

350-13

暑中お見舞申上ます。

拝復、無事に帰朝をおよろこび申しあげます。アフガニスタンとは、また珍らしい国へ行かれたものです。何か子供向に書くような話を何かせしてくれませんか。私はこのかおりにこそ年。女房はインドにこそ年ほど居たことがありますがアフガニスタンは知りません。一度おいでなかでもお話しにきていろいろお伺を致上ます。敬具

いろいろとおもしろい便りをありがとう。朝日漫は今までたしかめてみようと思う。帝劇へ行ったらあの辺の山崎酒を飲ませる店はもう無くなった。横丁式かき田谷区北沢二丁目一四番地に新居を建てて移転したのは昭和三十年三十歳の時でこの家を犬養健が「雨過山房」と名づけたと記憶にある。私はてくなった山崎を通じて古賀龍視や小島鼎とつるんだかとんな話をしたか覚えていない。女房が糖尿病で明治慶応病院へ入院するのを契機東京の妹が近くに来て妹の家へ行った。君と同じように私も独りになって明日から自炊生活春だというのにやレヤレ困ったものだ。遊びに来てください。

土家由岐雄
〒350-13 狭山市入間川一三五一十二
電話〇四二五五二八八八